



© Yuki Asada

カラフルな刺しゅうで収入アップ!

さんさん
燦々と照り付ける太陽に向かって、ナツメヤシ、オリーブなどの木々が勢いよく伸びている。「やあ!」「元気にやっているかい?」。行き交う人たちのほとんどが顔見知り。そのせいか、町中はいつものんびりと明るい雰囲気が漂っている。

ここは、広大なサハラ砂漠の中の小さなオアシスに広がるグルミマ。モロッコの首都ラバトから南東に約550キロ、人口2万人に満たないこの町で暮らす人々の多くは、北アフリカの先住民のベルベル人だ。目を引くのが、女性たちが伝統衣装として身にまとっている黒い布。レーヨン生地に施された色鮮やかな花の刺しゅうは、彼女たちの手縫いだ。

首都から遠く、山脈を隔てて自然環境

も厳しい町。人々の生活も、決して豊かとはいえない。本来であれば“稼げる”レベルの技術が、趣味程度にとどまっているのはもったいない。青年海外協力隊の大竹更あらたさんが女性たちに声を掛け、伝統技術の商品化が始まった。

パッと見ると美しい刺しゅうも、売るとなれば別の話。「より良いミシンの掛け方や型紙の使い方などを提案しています。少しずつですが、商品の“質”に対する意識が変わってきています」と、大竹さんは期待を込める。

ポシェットやランチョンマット、ベッドカバーまで種類もさまざま。世界に一つしかない、お気に入りの刺しゅうを見つけてみてはいかが。



手先が器用な女性たちの刺しゅうのきめ細やかな美しさに心奪われる

★刺しゅう製品を5人にプレゼント!
→詳細は38ページへ

★モロッコ手芸フェアトレードサイト
(www.theanou.com:英語)を通じて一部購入可能。

